

もも栽培情報 第3号

令和7年4月23日
J A アルプス
富山県富山農林振興センター

1 概況

園芸研究所果樹研究センター（魚津市）では、「あかつき」の開花始め（2～3割開花した日）は4月7日（前年値4月7日、平年値4月9日）と、昨年並み、平年より2日早くなりました。今後は、実どまりが確認でき次第、摘果作業を進め、スムーズな果実肥大を促しましょう。

2 病害虫防除

せん孔細菌病の重要防除時期です。散布間隔が空きすぎないように、また、散布ムラのないよう下表を参考に防除を実施してください。なお、コンフューザーMMを使用する場合は、5月初旬に、10アール当たり100本設置してください（栽培情報第2号参照）。

結実樹（散布量：5回目：350L/10a、6回目以降：400L/10a）

回	時 期	対象病害虫	使用農薬	希釈倍率	100L 当たり 必要薬剤量
5	5月上旬	黒星病 せん孔細菌病 (展着剤)	デランフロアブル バリダシン液剤5 マイリノー	600倍	166 mL
				500倍	200 mL
				20,000倍	5 mL
6	5月中旬	せん孔細菌病 アブラムシ類、モモハモグリガ、 シンクイムシ類、カメムシ類 (展着剤)	マイコシールド スタークル顆粒水溶剤(※1) マイリノー	2,000倍	50 g
				2,000倍	50 g
				20,000倍	5 mL
7	5月下旬	せん孔細菌病、黒星病 アブラムシ類、モモハモグリガ、 シンクイムシ類、ハマキムシ類 (展着剤)	デランフロアブル サイアノックス水和剤(※2) マイリノー	600倍	166 mL
				1,000倍	100 g
				20,000倍	5 mL

※1：前年、カイガラムシ類の発生が多かった園地では、スタークル顆粒水溶剤のかわりに、モスピラン顆粒水溶剤（2,000倍、前日まで、年3回以内）を混用散布する。

※2：コンフューザーMMを設置する場合、サイアノックス水和剤の散布は必要ありません。

未結実樹（散布量：5L以上/樹）

回	時 期	対象病害虫	使用農薬	希釈倍率	100L 当たり 必要薬剤量
4	5月上旬	黒星病、せん孔細菌病 (展着剤)	デランフロアブル マイリノー	600倍 20,000倍	166 mL 5 mL
5	5月中旬	せん孔細菌病 アブラムシ類、モモハモグリガ、 シンクイムシ類、カメムシ類 (展着剤)	マイコシールド スタークル顆粒水溶剤(※3) マイリノー	2,000倍	50 g
				2,000倍	50 g
				20,000倍	5 mL

※3：前年、カイガラムシ類の発生が多かった園地では、スタークル顆粒水溶剤のかわりに、モスピラン顆粒水溶剤（2,000倍、前日まで、年3回以内）を混用散布する。

農薬散布の際は、濃度や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。
また、周辺の他の作物や住宅等に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。

3 予備摘果作業

満開20日後頃から行い、満開30日後までに終わらせてください。小さい果実や病害虫被害果、着果位置の悪い果実（上向き、結果枝の先端、枝に挟まる果実、主枝・亜主枝の先端部分）を落とし、最終着果量の2倍程度の果実を残してください（下表参照）。

結果枝の種類(長さ)	結果枝本数当たりの 着果数(予備摘果後)	結果枝本数当たりの 着果数(仕上げ摘果後)
長大な長果枝(50～80cm)	1本に6～7果	1本に4～5果
長果枝(30～50cm)	1本に4～5果	1本に2～3果
中果枝(10～30cm)	1本に2～3果	1～2本に1果
短果枝(10cm未満)	1本に1果	3～4本に1果
花束状短果枝(2～3cm)	4～5本に1果	8～10本に1果

- 農作業に当たっては、こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。
- 脚立での作業や、農業機械での作業時等の作業安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。